

ZENBUTSU

# 全仏



No.  
515

仏暦2549年 1月  
[2006年]



(世界遺産：インド、アジャンタ第26窟 撮影＝田村 仁氏)

## CONTENTS

新春のご挨拶 —— 「新年にあたって」 藤井日光会長、「伝統と創造」 里見達人理事長

報告 —— 第39回全日本仏教徒会議滋賀大会開催  
第2回宗教と生命倫理シンポジウム (財)日本宗教連盟主催  
第27期会長・副会長推戴について  
東京都仏教連合会主催「成道会の集い」  
第52回全日本仏教婦人連盟大会

事務総局録事



財団法人 全日本仏教会  
Japan Buddhist Federation  
世界仏教徒連盟(WFB)日本センター  
Japan Regional Center of World Fellowship of Buddhists

# 新年にあたって



会長

藤井 日光

平成十八年の年頭を迎え、慎んでご挨拶申し上げます。全日本仏教会加盟団体の皆さまには、日頃より仏教興隆に向けてご尽力されますこと、誠にご同慶の至りと存じ上げます。

さて、私どもは、釈尊がこの娑婆世界に降りられてより、そのみ教えに導かれ、仏教という宗教的思想の中で、永遠の心の安穩と清らかな国土を希い、日々の営みの中で生かされている生命の尊さと、互いに尊重し合う共存共生を希求して参りました。

しかし乍ら、現今の世界を顧みれば、政治の変革と経済の変化は悪化の一途を辿り、人類自らが招き起こしている環境破壊に起因する自然災害は、私どもも安穩なる生活基盤を揺るがし、人類存在そのものを衰退させるほどの心の不安を掻きたてております。

この様な時代にこそ、私どもも仏教徒

は、今起こりつつある問題を直視して、釈尊が「みな等しく釈種という種姓になる」と示されるが如く、生かされている生命の尊さを伝え弘めなければなりません。

この世界に生きる私ども一切衆生は、み仏の子であり、心には皆等しく仏となる種を平等に宿しております。私どもも仏教徒はその種を開花させ、人類の心の平安と世界の平和の実現のために、各教宗派が共に手を携え一致団結して、菩薩の使命に邁進することが肝要であると心得ます。

新たな年を迎えるに当たり、全日本仏教会加盟団体の皆さまの深いご理解とお力添えを願いつつ、み仏の智慧と慈悲が、普く生きとし生けるものもの安穩を導き、恒久の平安とならんことをお祈りする次第であります。

南無妙法蓮華経

# 伝統と創造



理事長

里見 達人

謹んで平成十八年の新春の賀詞を申し上げます。

本年も全日本仏教会をご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。

伝統仏教界も激しい世相の変動のなかに新しい年を迎えました。

昨日の常識は今日すでに古く、明日は渾沌として予測をすることさえ難しい。

年末のある大新聞に、結婚する女性百人の中の三人が国際結婚を良しとし、その意見として「日本の家族制度やよきたりが煩わしくていやだから」とありました。

いま、檀家制度のようなものをも含めて「日本の家」についての全てが急速に変わるうとしているようです。

伝統仏教に対するマスメディアの受けとりかたにも不安を覚えます。

このような風潮の中で、ひとむかし

前の人々が普通に持っていた仏教的な常識やならわしも急速に失われつつあるように思えるのです。

もはや仏教界は、古さと伝統のなかに安住してはられません。

伝統の尊さを確立するとともに、新しい時代の流れを直視し、仏教界に対する社会の眼の厳しさをも充分に受けとめて、将来に生きる伝統仏教の意識とありかたを創造していかなければならないと考えております。

伝統仏教界の唯一の包括団体である全日本仏教会への倍旧のご支援をお願い申し上げて新年のご挨拶といたします。

合掌

「出会い 縁を生き、伝えるわれら」をテーマに

## 第39回 全日本仏教徒会議滋賀大会

西川きよし氏が記念講演「福祉は我が家から」



開会式で挨拶する里見達人理事長（大津プリンスホテル）

### 慈悲と共生のこころ未来へ伝う

### 平和を願う仏教徒二九〇〇名結集

十一月十六日・十七日の二日間に亘り、第三十九回全日本仏教徒会議滋賀大会が大津プリンスホテルと県立芸術劇場びわ湖ホールの二会場で開催された。

滋賀県での開催は、四十九年ぶり二回目となり、「出会い 縁を生き、伝えるわれら」をテーマに両日延べ二千九百名の仏教徒が結集した。大会初日の十六日は、開会式、分科会、加盟団体代表者会議、交流親睦の夕べが行われ、十七日には、記念式典のほか、元参議院議員でタレントの西川きよし氏を迎え記念講演が行われた。

開会式では、山本孝圓大会会長（滋賀県仏教会会長）を大導師に三帰依文を唱和。続いて、里見達人理事長が「伝統仏教界の中で、その伝統だけで次の時代を迎えるわけにはいかない。伝統と新しいものを作っていく創造、この創造なくして明日はない。政治の世界ともより多くコンタクトを取り、メディアに対して発信しないといけない。全日本仏教会は、これからも日本文化を再認識し、伝統仏教のすばらしさを訴えていこうと思う」と語った。

次に山本会長が「み仏の慈悲と共生のこころを二十一世紀から地球と子孫に伝え、更には未来に向けて一人ひとりが真剣に考える大会になるよう宗派を超えて、日本仏教の古里である滋賀県から世界平和を呼びかけたい」と挨拶した。また、加盟団体を代表して渡邊恵進天台座主が、各界を代表して武

村正義元大蔵大臣がそれぞれ祝辞を述べた。

開会式の後、今回初の試みとなった加盟団体代表者会議と四つの分科会に分かれて議論が交わされた。その後、全体会において各分科会報告者から内容について報告がなされた（四頁～六頁に詳細掲載）。さらに、交流親睦の夕べでは、終始和やかな雰囲気のみならず、親睦を深めることとなった。

翌十七日、会場をびわ湖ホールへ移して記念式典並びに特別記念講演を開催。各宗派関係者や地域仏教会、檀信徒門信徒ら約二千名で大ホールは満席となった。開式に続いて大会旗返還が行われ、前回の開催地である新潟県仏教会（中村啓識会長）から滋賀県仏教会（山本会長）へ大会旗が手渡された。

山本会長の導師のもと天台眞盛宗僧侶二十三名が出仕して静寂な舞台と幻想的な照明のなか声明『諸天漢語讚』（しよてんかんごのさん）を唱えた。さらに仏教徒の歌『ああ、このよるこび』が浄土宗滋賀教区寺院婦人会「コーラスあおい」により披露され、会場一杯に心地よい歌声が響いていた。

里見理事長が藤井日光本会会長の「いのちの大切さを見直し、日々の人々の営みが豊かになり、生きとし生けるものすべてが等しくみ仏の慈光を授かることを祈念するものでありま

す」とのお言葉を代読し、引き続き挨拶を行った。

祝辞においては、安田暎胤本会副会長（法相宗大本山薬師寺管主）が現在の宗教離れを指摘。「人が為に尽くすパワーを学ばなければならぬ。喜びや感動を与えないと人は集まらない」と現代社会に警鐘を鳴らした。加えて「社会の腐敗を宗教者の責任とし、今回議論されたことを日常の布教の中で活かさなければ、もったいない」と語った。

特別記念講演では、元参議院議員でタレントの西川きよし氏が「福祉は我が家から」と題してユーモアを交えた語り口で聴衆を沸かせた。

西川氏は、自らの健康法を紹介しながら、「六十歳をすぎたら、三カ月に一度血液検査を」と語り、介護については、「困った時はデイサービスやシヨートステイなど中間施設の利用を」と、定期的に看る人も看られる人も互いにリフレッシュすることを推奨した。また、四世代が同居する家族の楽しいエピソードを紹介しながら、「家の中で辛抱するべきところはして、言うべきところは言わないとうまくいきません」と話し掛けた。さらに来賓、還暦を迎えるにあたり、「周囲の人の言うことを素直に聞ける人間になりたい」と熱く語った。

両日に亘り、会場では特別展示とし

て「ルンビニー園復興事業の歩みパネル展」を開催。釈尊生誕地を示すとされるマヤ堂直下から出土したマーカーストーンの原寸大レプリカを展示するなど、二十数年に亘る本会の事業を紹介した。また、(財)全国青少年教化協議会主催の現代名僧墨蹟展が行われ、各宗派管長、大本山貫首をはじめ名僧の掛け軸や色紙が展示即売された。さらに、未曾有の被害をもたらしたパキスタン北部地震の被災者救済のため、募金箱を設置して参加者に呼び掛けた結果、二十九万六千九百六十八円の善意の浄財が寄せられた。

閉会に際して、今回の開催地となる神奈川県仏教会へ大会旗が引き継がれ、山本会長から横山敏明会長へ手渡された。今回は、第四十回の記念大会となり、平成十九年十一月十九日～二十日、横浜市で開催予定。



講演する西川きよし氏

## 加盟団体代表者会議

「討議一 仏教にみる個と社会」

「地域社会の再生は、仏教界の

活性化につながるか？」

「討議二 NEXT五〇」

「未来を見据えたこれからの

全一仏教の軌跡をえがく」

【提言者】

鈴木永城（仏教情報センター理事長）

町田宗鳳（東京外国語大学教授）

木村至宏（成安造形大学学長）

齋藤明聖（全日本仏教会事務総長）

加盟団体代表者会議は、七十余名の参加を得て開催された。

討議一では、鈴木師が最近の電話相談の傾向として仏事に関するマスコミの情報に振り回されている。具体的には、葬儀や戒名・法名の布施などについて一部の情報を頼りに菩提寺や懇意にしている寺院との違いを指摘し、敏感に反応して相談してくる。相談者の中には、信仰心が薄く、普段、お寺のつきあいを疎かにしていることも忘れている方が多くみられる。個の確立には、縁を基にした宗教が必要であり、家の宗教に戻る必要を感じると述べた。次に町田師は、日本仏教の新しい表現として家族や学校、企業等の共同体の再構築に仏教界が協力する可能性はあるか。例えば、坐禅やお題目、お念

仏を体現してもらえないような企画や宗祖仏教から脱却した仏教法話の実行が個の確立に繋がるのではないか。過去の日本仏教は、個を抑圧してきた歴史が在るが、今の時代の言葉で理解してもらえぬ事が大切と述べた。

続いて木村師は、滋賀県の寺院数は、約三千八百ヶ寺あり、人口当たりの数では全国一である。しかし、伝統的な儀式や慣習などの意味を知らないまま人々に継承されている現実がある。もつと寺院間のネットワークを緊密にして、一般の方へ広報すべきではないかと述べた。

討議二では、齋藤事務総長が、先のテーマにも共通する相互理解のために必要なコミュニケーションを語った。本会創立五十年のあゆみや仏教の持つ魅力を広報という立場から、加盟団体は基より一般社会へ伝えることが大きな意義を持つと述べた。

会議では、提言者同士また会議に出席した代表者から二つのテーマに関連した「伝統仏教は一般社会に向けたメッセージを発信すべき」との意見や質問がなされた。今回の加盟団体代表者会議の持ち方は、これからの仏教徒会議の運営に一石を投じる役割を果たすことができ、さらなる改善に向かっていくこととなる。

## 第一分科会

「いのち 取り巻く環境」

「琵琶湖の生態系を通じて」

「子孫に残す環境を考える」



左より武村氏、浅岡氏、奈倉師、藤井氏

はじめに、提言者の武村氏より「地球規模での環境破壊に照らし、琵琶湖の環境破壊防止についても更なる努力が必要」と提起。琵琶湖の環境破壊が人体に及ぼす影響について討議された。

【提言者・座長】  
武村正義（元大蔵大臣）  
【パネリスト】  
奈倉道隆（四天王寺国際仏教大学大学院教授）  
浅岡 恵（気候ネットワーク代表）  
藤井紳子（滋賀県環境生活協同組合理事長）

僧侶であると共に医師である奈倉師は「命は自然に生長するというのが仏教の考え方であり、琵琶湖はその清い水によっていのちを育んできた」と、仏教者の立場から発言した。

二酸化炭素削減の京都議定書締結に市民の立場から関わってきた浅岡氏は、現況の排出量レベルは自然環境が吸収可能な量の二倍であることを指摘した。

藤井氏は、菜の花プロジェクトでバイオディーゼルを推進。過去赤潮が琵琶湖で発生したことに照らして考える「我々は被害者ではなく琵琶湖汚染の加害者でもある」と語った。

琵琶湖の浄化運動が進められる中、子どもたちの環境に対する意識低下が指摘され、自ら行動して学ぶ教育の大切さが課題となった。さらに、平成九年から続いている「琵琶湖の日」に行われる清掃活動を例に挙げて、大人が実践的活動の姿を子どもたちに示すことが教育に効果があるとした。

戦後、日本社会の復興の過程で心、宗教、道徳がおろそかにされ、今さえよければという考え方が環境破壊、財政破壊を招いたのではとの意見や、三世十方のいのちを育む琵琶湖こそ仏様そのものであり、いのちを何よりも大切にしている仏教思想に基づき、環境問題に取り組む必要性が語られた。

## 第二分科会

「仏教徒による国際貢献」

「いま、求められる」

「NGO活動と国際交流」

【提言者】

秦 辰也（シヤンティ国際ボランティア会専務理事）

【パネリスト】

茂田真澄（アユス仏教国際協力ネットワークワーク理事長）

サンガラトナ・法天・マナケ（パニャ・メツタ協会代表）

伊藤佳通（BAC仏教救援センター理事長）

植月百枝（フリーアナウンサー）

【座長】

植月百枝（フリーアナウンサー）



左より植月氏、秦氏、茂田師、サンガラトナ師、伊藤師

はじめに秦氏の提言が行われた。日本には国際協力に係わる団体は約五百程度ある。近年の自然災害また世界各地での同時多発テロなどに、平和といのちを尊重する立場から活動してきたが、その原点はカンボジアの内戦時の難民への支援だった。そこで絵本配布、また移動図書館事業などによる子どもたちへの教育支援を行ってきた。

NGO活動ではお互いの「違い」を尊重し、「いのち」を大切にすることを中心に行ってきた。しかし、日本の仏教徒をはじめ、市民の理解と国際協力が不十分であるのが現状であると述べた。

続いて茂田師、サンガラトナ師、伊藤師らが、それぞれのNGO団体の活動内容を詳細に説明し相互に活発な意見交換が行われた。

最後に仏教徒の国際貢献について、一人一人が自分の問題としてお互いに支え合う「縁起」の教えに基づくべきこと。また未来を担う青少年の育成はNGOの活動の中でも体験を通じて行うことができ、その場として寺を活用し地域社会、世界へと子ども達の目を広げることが大切であることを指摘。

また、国が間違った方向に進みそうになったとき、宗派を超えて仏教徒が連携してしっかりと発言を行っていくことが重要であると総括した。

## 第三分科会

「仏教徒にみる男女社会参画について」

～男女が共に助け合う～

社会のあり方を模索する

【提言者】

上川陽子（自由民主党衆議院議員）

【パネリスト】

木邊 美（近畿宗教婦人連盟総裁）

小川眞理子（浄土真宗本願寺派等光  
寺住職）

黒田 隆（社会福祉法人甲南会事務  
局長）

【座長】

滝口隆誠（浄土真宗本願寺派出版社  
部長）

座長の滝口師よりテーマの説明と提言者・パネリストの紹介がなされ開会した。提言者の上川氏は、男女共同参画社会の実現のためには、社会の基本単位である家族・家庭において、男女が主従の関係でなく、お互いを尊重しながら家庭を作っていく。そのなかに男女共同参画への大きなヒントがある。自民党は衆院選で大躍進し、女性議員数も大きく増えたが、それでも女性議員の数は議員全体の1割以下である。社会・組織の意志決定の場にどれだけの割合の女性がいるか、訴えていく必要があると述べた。



左より滝口師、上川氏、小川氏、木邊氏、黒田氏

## 第四分科会

「現代の政治を考える」

～公益法人制度改革と～

宗教法人への影響

【提言者】

小泉顕雄（自由民主党参議院議員・  
浄土宗僧侶）

【パネリスト】

田中 治（大阪府立大学教授）

樽床伸二（前衆議院議員）

宮城泰年（京都仏教会常務理事）

長谷川正浩（本会顧問弁護士）

【座長】

本多隆朗（浄土真宗本願寺派親鸞聖  
人七百五十回大遠忌事務  
所所長）

その後、活発な質疑応答のなかで、地域社会における子育てや学童保育に果たしうる寺院の役割や、地域・環境の差もふまえながら、仏教界がどのように持てる力を生かせるか、仏教界への期待と課題が提示された。

会場では、立ち見が出るほどの盛況の中、第四分科会は現代の政治と仏教界との係わりを探っていった。提言者・小泉師より、公益法人の課税の見直しにより及ぼされる、宗教法人への危惧される諸々の問題について説明された。また、今後、政教分離で大前提とした上で、宗教法人の代表者である僧侶が政治に向かってどう行動し、如何に関わっていくかが問われていると述べた。政治家であり、僧侶である身としては、地域においての寺院の存在意義を政治レベルで提言してい



左より本多師、小泉師、田中氏、樽床氏、宮城師、長谷川師

く為にも、政党・派閥を超えて仮称「宗教政治連盟」の発足を考えていることも告げられた。小泉師の提言を受けて各パネリストより問題提起がされ、質疑応答の時間が持たれた。現状、公益法人制度改革の先に宗教法人法を含めた制度改革が国会において取り上げられてもおかしくない。しかし、改革された公益法人制度をそのままではめること自体には無理がある。宗教法人の原則非課税の立場は強固に貫いていく必要がある。その為には一般大衆の理解が不可欠である。寺院の信用を取り戻し、「そこに寺院がある」ことの公益性を、檀門信徒に支持してもらえよう努力していく必要があるとの確認がされた。そのためにも仏教界は、政治に対して、対話・議論を通じて集約し、協同して発信していくことの重要性も確認された。

## 【財】日本宗教連盟主催 第二回宗教と生命倫理シンポジウム

### いま、臓器移植法改正問題を考える

十一月三十日、(財)日本宗教連盟では、築地本願寺・第二伝道会館「蓮華殿」において第二回宗教と生命倫理シンポジウムを開催した。

今回は、臓器移植法改正をめくり推進論者と慎重論者との見解が大きく隔たったままの状況が続いていることを受けて、脳死・臓器移植について本人の意思確認、脳死判定のあり方、十五歳以下への移植等々、脳死・臓器移植

問題が現代人に投げかけている諸問題について議論した。

「いま、臓器移植法改正問題を考える」をテーマに会場には、関係団体から百五十名が参加した。パネルディスカッションでは、コーディネーターに島蘭進氏(東京大学教授・日本宗教連盟理事)、パネリストに小松美彦氏(東京海洋大学教授)、青木清氏(上智大学名誉教授)、今岡達雄師(浄土宗総合研究所専任研究員)、斉藤泰氏(大本教学研究研鑽所研鑽室長)、竹内弘道師(曹洞宗総合研究センター)、今井克昌氏(立正佼成会中央学術研究所所長)を招き、議論が交わされた。

小松氏は、一九九〇年に『NHK特集・脳死』で放映された海外の臓器移植のビデオを資料映像として提供。臓器摘出シーンのショッキングな映像に会場は一時騒然とした。九〇年以降、臓器移植の映像は三回しか放映されておらず、貴重な映像であった。提言では、脳死臓器移植問題が歴史的にどのような展開してきたのか。また、脳死臓器移植というものが科学的医学的に

一般的に言われている通りのことなのか。国会に上程している改正三案について検証した。脳死状態で二十一年間生存した青年を例に上げ、「脳死＝人の死」の論理に科学的根拠がないことを指摘。また、脳死を人の死の基準とする法律そのものに強く反対した。

青木氏は、キリスト教カトリックの立場から「ヒトの脳死を死として受容し愛の行為として、臓器移植を肯定する」とした。また、脳死と判定された死体からの臓器移植について、臓器移植ネットワークによる公平な医療の必要性を唱えた。(※愛の行為とは、一九五六年、教皇ピオ十二世がイタリアの角膜提供者協会代表者への挨拶で述べた以下六つの条件、①提供者の自由意志による同意、②死の確認、③遺族への配慮、④遺体への畏敬、⑤遺体の売買の否定、⑥受容者の選択における公正)

今岡師は、脳死について「心拍停止・自発呼吸停止・瞳孔の散大をもって人間の死とした。また、臓器移植については人の臓器を資源と見なすことに懸念を表明。このような考え方を助長する可能性のある臓器移植は望ましくないとした。

さらに臓器提供者について、臓器提供の意思表示は提供者によって自発的、主體的に行われるべきと述べた。斉藤氏は、「脳死は大人であれ子ども

でもあれ、人の死ではない」と述べ、このことを死とみなすことは、生命軽視の風潮を助長し、倫理観の崩壊、人心の荒廃をもたらすとした。政府調査会が脳死・臓器移植問題の本質に目を向け、賢明で慎重な審議を強く望んだ。竹内師は、曹洞宗のこれまでの取り組みを紹介。現行法の問題点として、脳死を死とすることにについては自己決定を基本とするとした。また、臓器移植の推進を促す教材や宣伝がなされていることに「選択肢のない一方的な情報に意識操作される」と批判し、「個人の選択のために判断材料を提供していくべき」とした。

質疑応答では、臓器提供を待つ人たちに対してどのように考え、どのように伝えるのか。子どもの臓器移植は日本ではできないが、海外で可能なことに対する質問等がなされ、提言が求められた。

今井氏は、「一人の子どもが生きて還ってくる反面、一人は亡くなっている」とし、臓器提供によって亡くなる子どもたちのことを考えると、一概に賛成できないと述べた。小松氏は臓器移植にも脳死同様に科学的な根拠を見つけていかなければならないと述べるとともに、学者の集団がテクノロジーを集結し、提言できるような部分が未熟であると指摘した。



左より島蘭氏、小松氏、青木氏、今岡師、斉藤氏、竹内師、今井氏

# 新年 賀 謹

- 会長** 藤井 日光
- 副会長** 安田 映胤
- 理事** 里見 達人
- 常務理事** 有田 惠宗
- 評議員** 乙川 映元
- 監事** 仲田 順和
- 理事** 成田 有恒
- 常務理事** 不二川公勝
- 評議員** 湯浅 高明
- 監事** 三浦 碩運
- 理事** 小林 正道
- 常務理事** 岩間 湛正
- 評議員** 松浦 俊海
- 監事** 中村 謙秀
- 理事** 菅部 融宣
- 常務理事** 高井 隆成
- 評議員** 古谷 正覚
- 監事** 吉川 惠教
- 理事** 濱中 光礼
- 常務理事** 島 秀隆
- 評議員** 菅野 秀浩
- 監事** 菅原 正憲
- 理事** 浅井 侃雄
- 常務理事** 坂本 峰徳
- 評議員** 今井 浄圓
- 監事** 岡田 康秀
- 理事** 大谷 博通
- 常務理事** 東谷 智
- 評議員** 上村 映雄
- 監事** 逸見 道郎
- 理事** 石上 智康
- 常務理事** 英 良智
- 評議員** 安田 松慶
- 監事** 武井 弥弘
- 理事** 松濤 弘道
- 常務理事** 岡田 祐雄
- 評議員** 沼田 智秀
- 監事** 田澤 元泰
- 理事** 菅原 正憲
- 常務理事** 赤松 康英
- 評議員** 塚田 宗雄
- 監事** 谷 玄明
- 理事** 武田 昭英
- 常務理事** 若槻 繁隆
- 評議員** 岩坪 眞弘
- 監事** 近藤 眞道
- 理事** 調 紀
- 常務理事** 萩野 映明
- 評議員** 谷 晃昭
- 監事** 井桁 雄弘
- 理事** 岡野 正純
- 常務理事** 山田 日等
- 評議員** 石田 眞住
- 監事** 長岡 安成
- 理事** 森田 俊朗
- 常務理事** 垣内 善勝
- 評議員** 五辻 信行
- 監事** 林 惠智子
- 理事** 守山 雄順
- 常務理事** 和田 大雅
- 評議員** 曾和 義雄
- 監事** 安本 利正
- 理事** 桶屋 良祐
- 常務理事** 春日 浩三
- 評議員** 中條 令紹
- 監事** 西村 輝成
- 理事** 酒井 文雄
- 常務理事** 栗生 孝
- 評議員** 高橋 智運
- 監事** 渡邊 宗徹
- 理事** 横山 敏明
- 常務理事** 内藤 睦雄
- 評議員** 松山 英照
- 監事** 井上 尚実
- 理事** 加納 博司
- 常務理事** 山口 祐哉
- 評議員** 山本 亮裕
- 監事** 坂詰 秀一
- 総務委員会** 山下 昭文
- 事務総局** 齋藤 昭俊
- 顧問弁護士** 長谷川正浩
- 仏教とマルチメディア研究会** 竹内 弘道
- 信教の自由に関する委員会** 乙川 映元
- 国際委員会** 小林 千秋
- 適切な宗教教育実現のための条改正推進特別委員会** 菅原 正憲
- 事務総局長** 齋藤 明聖
- 財務部長** 櫻井 英幸
- 同和推進部長** 宮川 宏生
- 社会部長** 小島 恵真
- 社会部長** 奈良 慈徹
- 国際文化部長** 大澤 玄仁
- 事務部次長** 江口 智流
- 同和推進部次長** 入西 智彦
- 社会部次長** 福田 亮二
- 国際文化部次長** 北折 真一
- 事務部主事** 江島 聖美
- 財務部主事** 江澤みゆき
- 関西事務局一同**

# 年 新 賀 謹

## 財団創立五十周年記念事業実行委員会委員

### 委員長

里見達人 (理事長)

### 副委員長

有田惠宗 (常務理事)

不二川公勝 (常務理事)

長久寺徳瑞 (常務理事)

小林正道 (常務理事)

岩間湛正 (常務理事)

服部融宣 (常務理事)

細川景一 (常務理事)

濱中光礼 (常務理事)

島 秀隆 (常務理事)

浅井侃雄 (常務理事)

大谷博通 (常務理事)

石上智康 (常務理事)

松濤弘道 (常務理事)

葦原正憲 (理事)

武田昭英 (理事)

調 紀 (理事)

岡野正純 (理事)

森田俊朗 (理事)

桶屋良祐 (理事)

酒井文雄 (理事)

横山敏明 (理事)

長岡安成 (理事)

近藤真道 (理事)

増田貞圓 (理事)

雲井世雄 (理事)

仲田順和 (監事)

### 委員

山下昭文 (曹洞宗)

西山慈晃 (浄土真宗本願寺派)

藤田哲史 (真宗大谷派)

入西勝彦 (浄土宗)

中條令紹 (日蓮宗)

高橋智運 (高野山真言宗)

松山英照 (臨濟宗妙心寺派)

小林祖承 (天台宗)

廣橋義敬 (真言宗智山派)

菅野秀浩 (真言宗豊山派)

渡部高男 (孝道教団)

坂本峰徳 (和宗)

守山雄順 (聖観音宗)

福田収治 (念法真教)

岡田祐雄 (真言宗醍醐派)

生柳光壽 (真宗高田派)

君野諱賢 (西山浄土宗)

松浦浩道 (臨濟宗南禅寺派)

前阪良憲 (天台眞盛宗)

高木貞歎 (時宗)

久我徹昭 (浄土宗西山禅林寺派)

青木謙整 (臨濟宗東福寺派)

岡田眞澄 (融通念佛宗)

岡本誠教 (本門佛立宗)

朝比奈惠温 (臨濟宗円覚寺派)

窓岡弘道 (真宗木辺派)

福家俊彦 (天台寺門宗)

田中利典 (法華宗陣門流)

橋村公英 (華嚴宗)

森谷英俊 (法相宗)

山内教嶺 (北海道仏教会連盟)

大井 亮 (青森県仏教会)

仙波孝郎 (福島県仏教会)

寺内泰俊 (茨城県仏教会)

稲木義友 (栃木県仏教会)

若槻繁隆 (群馬県仏教会連合会)

萩野映明 (埼玉県佛教会)

新倉典生 (東京都仏教会連合会)

本間孝康 (神奈川県仏教会)

上原教仁 (新潟県仏教会)

内藤睦雄 (山梨県仏教会)

山口祐哉 (長野県仏教会)

加納博司 (岐阜県仏教会)

柴田尚明 (静岡県仏教会)

吉田教行 (愛知県仏教会)

黒川英正 (滋賀県仏教会)

長沢香静 (京都仏教会)

川島謙宗 (京都府仏教会連合会)

井桁雄弘 (大阪府仏教会)

金井孝顕 (兵庫県仏教会)

太田智徳 (和歌山県仏教会)

谷本正道 (鳥取県仏教会連合会)

萩岡裕明 (徳島県仏教会)

藤原宥然 (香川県仏教会)

三浦章爾 (愛媛県仏教会)

松尾善雄 (福岡県仏教会連合会)

一月正人 (長崎仏教会連合会)

林惠智子 (全日本仏教婦人連盟)

藤城 尚 (日本仏教鑽仰会)

坂本観泰 (全日本仏教青年会)

正本乗光 (国際仏教興隆協会)

小林昭彦 (日本仏教保育協会)

佐藤功岳 (東京ブディストクラブ)

高島孝範 (仏教伝道協会)

小川亮昌 (仏教情報センター)

安本利正 (事務総長推薦)

西村輝成 (事務総長推薦)

川島宏之 (事務総長推薦)

荒川正憲 (事務総長推薦)

野生司祐宏 (事務総長推薦)

中 正宣 (事務総長推薦)

藤木雅雄 (事務総長推薦)

杜多徳雄 (事務総長推薦)

木内隆志 (事務総長推薦)

小峰立丸 (事務総長推薦)

一島正眞 (事務総長推薦)

小笠原隆元 (事務総長推薦)

松永然道 (事務総長推薦)

戸松義晴 (事務総長推薦)

和田大雅 (事務総長推薦)

井澤孝一 (事務総長推薦)

吉水智栄 (事務総長推薦)

五條良知 (事務総長推薦)

山田一眞 (事務総長推薦)

鎌田良昭 (事務総長推薦)

(十二月十四日付)

# 年 新 賀 謹

## 曹洞宗宗務庁

管 長 宮崎 奕保

宗務総長 有田 惠宗

参 議 南澤 道人

参 議 藏山 光堂

教学部長 葦原 正憲

総務部長 乙川 暎元

人事部長 荒井 源空

教化部長 河村 松雄

出版部長 志保見 道元

伝道部長 西村 喜侯

財政部長 宮崎 英輝

東京都港区芝二一五一—

〒105-8544 ○三(三四五四)五四一—

<http://www.sotozen-net.or.jp>

## 浄土真宗本願寺派

総 長 不二川 公勝

総 務 武田 昭英

総 務 桑羽 隆慈

総 務 宮崎 憲之

総 務 後藤 壽邦

総 務 橘 正信

本願寺宗務員部  
センター所長 涌水 邦英

畿関七高四実憲  
中央法要事務所長 本多 隆朗

教学伝道研究  
センター所長 上山 大峻

会 行 事 今小路 覚真

総局公室長 藤田 誓之

京都市下京区堀川通花屋町下ル

〒600-8501 ○七五(三七七)五一八一—

FAX ○七五(三三三)一一一一—

## 真宗大谷派

宗務総長 熊谷 宗惠

参 務 長久寺 徳瑞

参 務 里雄 康意

参 務 高木 文善

参 務 首領圏教化  
推進本部長 林 治

参 務 齋藤 雅彦  
安藤 伝融

京都市下京区烏丸通七条上ル

〒600-8505 ○七五(三七七)九二八一代表

## 浄土宗

浄土門主 中村 康隆

宗務総長 水谷 幸正

総務局長 福嶋 照純

教学局長 岡本 宣丈

財務局長 曾和 義雄

社会国際局長 松本 眞岳

文化局長 入西 勝彦

総長公室長  
宗祖法然上人  
八百実憲事務局長 豊岡 隼尔

人権同和室長 浅野 義光

職 員 一 同

浄土宗宗務庁

京都市東山区林下町四〇〇一—八

〒605-0062 ○七五(五二五)二二〇〇代

FAX ○七五(五二五)一〇〇五

東京都港区芝公園四一七一—四

〒105-0011 ○三(三四三三)三三五一代

FAX ○三(三四三四)〇七四四

<http://www.jodo.or.jp>

## 日蓮宗

管 長 藤井 日光

宗務役員一同

東京都大田区池上一一三二—一五

〒146-8544 ○三(三七五)一七一八一

FAX ○三(三七五)一七一八六

<http://www.nichiren.or.jp/>

# 謹賀新年

総本山金剛峯寺  
高野山真言宗務所

座長 資延敏雄

執行総長 土生川正道

執行総長 真田有範

執行総長 岩坪真弘

執行総長 高岡隆州

執行総長 篠田光海

執行総長 高橋智運

執行総長 佐々木弘傳

執行総長 佐々木兼俊

執行総長 富家海信

執行総長 倉岡弘叔

執行総長 山階清隆

執行総長 服部融宣

和歌山県伊都郡高野町高野山一三三二  
〒648-0294 〇七三六(五〇)二〇一一  
FAX 〇七三六(五〇)四六四〇  
<http://www.koyasan.or.jp/>

臨濟宗妙心寺派

管長 西片義保

宗務総長 細川景一

宗務総長 松井宗益

宗務総長 栗原正雄

宗務総長 松山英照

宗務総長 一色宏襄

宗務総長 川島謙宗

宗務総長 花園長会

宗務総長 松井宗益

京都市右京区花園妙心寺町六四  
〒616-8035 〇七五(四六三)三二二一  
<http://myoshin.com/>

天台宗務庁

天台座主 渡邊惠進

宗務総長 濱中光礼

宗務総長 小林祖承

宗務総長 壬生照道

宗務総長 山本亮裕

宗務総長 谷晃昭

宗務総長 源田俊昭

宗務総長 秋吉文隆

大津市坂本四丁目六番二号  
〒520-0113 〇七七(五七九)〇〇二二  
FAX 〇七七(五七九)二五二六

真言宗智山派宗務庁  
総本山智積院法務所

管長 宮坂宥勝

宗務総長 島秀隆

宗務総長 佐藤玲秀

宗務総長 里見秀明

宗務総長 久志卓世

宗務総長 倉松隆観

宗務総長 司東和光

宗務総長 廣橋義敬

京都市東山区東大路七条下ル  
〒605-0951 〇七五(五四)二五三六一

真言宗豊山派宗務所

管長 鳥居慎譽

宗務総長 浅井侃雄

宗務総長 中川祐聖

宗務総長 鈴木道雄

宗務総長 根岸榮宏

宗務総長 菅野秀浩

宗務総長 田代弘興

宗務総長 加藤精一

東京都文京区大塚五―四〇―八  
〒112-0012 〇三三(九四五)〇六三九  
FAX 〇三三(九四五)〇七〇二

真言宗豊山派総合研究院 院長

# 謹 賀 新 年

真言宗醍醐派宗務本庁  
総本山醍醐寺寺務所

座管 主長 麻生 文雄

執宗務 宗務総長 仲田 順和

執総務 総務部長 岡田 祐雄

執教学 教学部長 田村 照晃

執財務 財務部長 壁瀬 宥雅

〒601-1325 京都市伏見区醍醐東大路町二二  
〇七五(五七)〇〇〇二  
FAX 〇七五(五七)〇一〇一  
<http://www.daijogu.jp>  
携帯電話にも御覧頂けます。



黄檗宗大本山萬福寺  
黄檗宗宗務本庁

管 長 仙石 泰山

宗務総長 赤松 達明

財務部長 秦 旭光

庶務部長 中澤 元重

教学部長 荒木 将旭

京都府宇治市五ヶ庄三番割三四  
〒611-0011 〇七七(四三)三九〇〇  
FAX 〇七七(四三)六〇八八

天台眞盛宗宗務所  
総本山西教寺

管 長 山本 孝圓

宗務総長 西村 岡紹

教学部長 武田 圓龍

庶務部長 勝田 秀譽

財務部長 稲葉 克也

社会部長 三津 堯賢

滋賀県大津市坂本五―三―一  
〒520-0113 〇七七(五七八)〇〇一三  
FAX 〇七七(五七八)三四一八

金峯山修験本宗  
総本山 金峯山寺

管 長 五條 順教

執宗務 宗務総長 田中 利典

奈良県吉野郡吉野町吉野山  
〒639-3115 〇七四(六三)八三七一  
URL: <http://www.kinpusen.or.jp>

大本山大覚寺  
真言宗大覚寺派宗務庁

管門 長跡 新開 真堂

執宗務 宗務総長 坂口 博翁

京都市右京区嵯峨大沢町四  
〒616-8411 〇七五(八七)〇〇七一  
FAX 〇七五(八八)四九一一

真言三寶宗  
大本山清澄寺

法管 主長 坂本 光謙

宗務長 岡田 康秀

執行長 有井 良隨

鉄斎美術館 館長 村越 英明

宝塚市米谷字清シ一番地  
〒665-0837 〇七九(七八)六六四一  
FAX 〇七九(七八)六六六〇  
<http://www.kiyoshikojin.or.jp>

信貴山真言宗  
総本山朝護孫子寺

管 長 鈴木 風永

前管長 田中 真瑞

宗務長 鈴木 貴晶

寺務長 野澤 密孝

奈良県生駒郡平群町信貴山三八〇―一  
〒636-0923 TEL 〇七四(五七)三二七七  
FAX 〇七四(五七)三二七七

# 年 新 賀 謹

總本山仁和寺  
真言宗御室派  
御室流華道總司庁

管門 長 跡 佐藤 令宜

執行 長 中井 龍照

總執 務 長 大塚 聖純

教 學 長 生石 和宏

執 務 長 打田 祐善

京都市右京区御室大内三三三  
〒616-8092 〇七五(四六一)一一五五  
F A X 〇七五(四六四)四〇七〇  
<http://www.ninnajor.jp>  
E-mail office@ninnajor.jp

顯本法華宗

管 長 中山 日暁

宗 務 長 中村 通義

宗 務 次 長 島田 幸晴

財 務 部 長 藤崎 行学

布 教 部 長 早川 義正

教 務 部 長 桑村 信慶

社 会 部 長 多門 顕正

庶 務 部 長 津村 乘信

京都市左京区岩倉幡枝町九十一  
〒606-0015 〇七五(七九二)七一一七  
F A X 〇七五(七九二)七二六七

融通念佛宗  
總本山大念佛寺

法 管 主 長 白井 慈勲

宗 務 總 長 山田 隆章

教 學 部 長 辻 康彦

財 務 部 長 塩野 善彬

大 阪 市 平 野 区 平 野 上 町  
〒547-0045 〇六(六七九)〇〇二六  
一七二六

本山佛光寺  
真宗佛光寺派

宗 務 總 長 大谷 義博

總 務 日野 英宣

總 務 野瀬 理

京都市下京区高倉通仏光寺下ル  
新開町三九七  
〒600-8084 〇七五(三四一)三三二一  
F A X 〇七五(三四一)三三二〇

本門佛立宗  
本山宥清寺

講 有 小山 日誠

宗 務 總 長 山内 日開

本 山 宥 清 寺  
〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入  
滝ヶ鼻町一〇五番地の一  
T E L 〇七五(四六三)四六二〇(代)  
F A X 〇七五(四六三)四六五一  
本 門 佛 立 宗 宗 務 本 庁  
〒602-8377 京都市上京区御前通一条上る  
東堅町一〇番地  
T E L 〇七五(四六一)一六六(代)  
F A X 〇七五(四六四)五五九九  
URL <http://www.honmon-butsumiyushu.or.jp/>

聖観音宗 浅草寺

貫 首 清水谷 孝尚

執 事 長 五十嵐 意承

東 京 都 台 東 区 浅 草 二 一 三 一 一  
〒111-0032 〇三(三八四)二〇一八一  
F A X 〇三(三八四五)六九三三

真言宗須磨寺派  
大本山須磨寺

貫 主 小池 弘三

寺 務 長 吉井 惠貫

神 戸 市 須 磨 区 須 磨 寺 町 四 一 六 一 八  
〒654-0071 〇七八(七三二)〇四一六

時宗  
總本山清浄光寺(遊行寺)

法 主 加藤 円住

神 奈 川 県 藤 沢 市 西 富 一 一 八 一 一  
〒251-0001 〇四六六(二三)七二七六

# 年 新 賀 謹

## 京都府仏教連合会

理事長 佐藤 諦学  
理事 不二川 公勝  
理事 熊谷 宗惠  
同 細川 景一  
同 島 秀隆  
同 仲田 順和  
同 杉若 惠隆  
同 野原 泰見  
同 畔柳 正顕  
同 桃井 晋城  
同 伊藤 喬淳  
同 柴山 昌実  
同 豊田 元彦  
監事 大谷 義博  
同 成田 隆徳  
事務総長 貴田 善澄

京都市東山区林下町四〇〇  
〒605-8686 浄土宗総本山知恩院内  
〇七五(五三二)二一一一

## 神奈川県仏教会

会長 横山 敏明  
副会長 本間 孝康  
同 倉田 隆常  
同 長尾 徳順  
同 藤井 良晃  
事務局長 井沢 孝一

横浜市中区大平町九六 西有寺内  
〒231-0859 〇四五(六六一)〇一六六

## 孝道山 本仏殿

統理 岡野 正貫

副統理 岡野 鄰子

副統理 岡野 正純

横浜 市神奈川区鳥越三三八  
〒221-0064 〇四五(四三二)二二〇一  
<http://www.kodosan.or.jp>

## 真言宗中山寺派

## 大本山 中山寺

宝塚市中山寺二丁目十一一  
〒605-8588 〇七九七(八七)〇〇二四  
FAX 〇七九七(八七)九八七七  
<http://www.nakayamadera.or.jp>

## 真言宗犬鳴派 大本山 七宝瀧寺 犬鳴山

貫管 主長 東條 仁哲

大阪府泉佐野市大木八番地  
〒598-0023 〇七二四(五九)七一〇一  
FAX 〇七二四(五九)七二〇一

## 真言宗国分寺派

管 長 丸山 雙誉

大阪府北区国分寺一六一一八  
〒531-0064 〇六(六三三)五六三七  
FAX 〇六(六三三)五六四七

## 臨濟宗円覚寺派

大本山 円覚寺

鎌倉市山ノ内四〇九  
〒247-0062 〇四六七(二二)〇四七八  
<http://www.engakujior.jp/>

## 法相宗

管 長 多川 俊映

奈良市登大路町四八 法相宗興福寺  
〒630-8213 〇七四二(二二)七七五五

## 新義真言宗

東京都文京区湯島四六一二二  
湯島ハイタウンB一三二一  
〒113-0034 〇三三八(一四)三四六四

## 宗教法人 念法眞教

総本山 金剛寺

大阪市鶴見区緑三十四一三二  
〒538-0054 〇六六九(一一)二二〇一

# 年 新 賀 謹

## 京都仏教会

会 長 東伏見 慈 洽  
 理 事 長 有 馬 頼 底  
 常 務 理 事 荒 木 元 悦  
 同 宮 城 泰 年  
 同 平 野 暎 哉  
 同 大 西 真 興  
 理 事 江 上 泰 山  
 同 安 井 攸 爾  
 同 森 泰 長  
 同 佐 伯 快 勝  
 同 北 園 文 英  
 同 北 川 隆 法  
 同 山 木 康 稔  
 監 事 月 沢 泰 信  
 同 沢 香 静  
 事 務 局 長 長 沢 香 静

京都市上京区今出川通烏丸東入  
 相國寺門前町六八四一  
 〒602-0898  
 F A X 〇七五(二三三)六九七五  
 F A X 〇七五(二三三)六九七六  
<http://www.kbogr.jp/>  
 E-mail staff@kbogr.jp

## 滋賀県仏教会

会 長 山 本 孝 圓  
 副 会 長 田 中 始 更  
 監 査 黒 川 英 正  
 同 少 徳 昭 雄  
 同 同 同 同  
 事 務 局 長 前 阪 良 憲

滋賀県大津市坂本五―一三一―  
 総本山西教寺内  
 〒520-0113  
 F A X 〇七七(五七八)〇〇一三  
 F A X 〇七七(五七八)三四一八

## 財団法人埼玉眞佛教会

会 長 酒 井 文 雄  
 副 会 長 腰 塚 麟 也  
 同 藤 田 得 三  
 同 同 同 同  
 専 務 理 事 萩 野 映 明  
 常 務 理 事 穂 山 教 雄  
 同 金 剛 秀 房  
 同 石 垣 源 順

さいたま市浦和区高砂  
 四―一三一―一八  
 〒330-0063  
 F A X 〇四八(八六一)二二三八  
 F A X 〇四八(八六四)六六四九  
<http://saijutu.net/>

## 西山浄土宗 総本山光明寺

法 管 主 長 岩 田 文 有  
 宗 務 総 長 柴 田 康 英  
 執 事 長 柴 田 康 英  
 内 局 一 同

京都府長岡京市粟生西条ノ内二六一―  
 〒617-0811  
 〇七五(九五五)〇〇〇二  
<http://www.komyo-ji.com>

## 福島県仏教会

会 長 鈴 木 張 広  
 専 務 理 事 石 田 宏 寿  
 事 務 局 長 熊 田 享 海

福島県郡山市香久池二一九―一四  
 〒963-8833  
 〇二四(九二二)二八二四  
 法久寺内

## 岐阜県仏教会

会 長 寺 町 研 山  
 理 事 長 杉 山 令 憲

岐阜市西野町三一―  
 岐阜西別院在会所西側入口  
 〒500-8882  
 〇五八(二六六)七八〇三  
 F A X 〇五八(二六六)七八〇三  
<http://bukkyogifunet/>

## 鳥取県仏教連合会

会 長 谷 本 正 道

鳥取県鳥取市寺町二七  
 本願寺内  
 〒680-0053  
 〇八五七(二二)四三六九

# 年 新 賀 謹

|   |  |  |   |
|---|--|--|---|
| <p>大阪府仏教会</p> <p>会 長 増田 貞圓</p> <p>副 会 長 北村 日照</p> <p>同 辻本 戒雲</p> <p>同 寺西 智成</p> <p>同 細井 光道</p> <p>事務局 井桁 雄弘</p> <p>事務局<br/>大阪市住吉区墨江三十七一八<br/>大圓寺内<br/>〒558-0043 〇六(六六七)三二五九<br/>FAX 〇六(六六七)五〇〇四</p> | <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p>   | <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p>   | <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p>                                    |
| <p>新潟県仏教会</p> <p>会 長 中村 啓識</p> <p>全仏評議員 春日 浩三</p> <p>副 会 長 浅平 真</p> <p>同 上原 教仁</p> <p>同 春日 教雄</p> <p>同 高橋 英文</p> <p>事務局 小林 秀徳</p> <p>長岡市上田町二二五 徳聖寺内<br/>〒940-0074 〇二五八(三三三)一五八六</p>                 | <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p>   | <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p>   | <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p>                                    |
| <p>東京都仏教連合会</p> <p>会 長 成田 有恒</p> <p>理 事 長 大谷 博通</p> <p>事務局 垣内 善勝</p> <p>同 岡島 博司</p> <p>同 吉田 教行</p> <p>副 会 長 玉井 康之</p> <p>名古屋市昭和区高峯町四八 普蔵寺内<br/>〒466-0811 〇五二(八三三)九七二〇</p>                           | <p>愛知県仏教会</p> <p>会 長 近藤 真道</p> <p>副 会 長 玉井 康之</p> <p>同 吉田 教行</p> <p>同 岡島 博司</p>            | <p>東京都葛飾区柴又六十七一二十 万福寺内<br/>〒125-0052 〇三(三六五七)四五八八<br/>FAX 〇三(三六五七)八五六三</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> | <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p>                                    |
| <p>静岡県仏教会</p> <p>会 長 柴田 尚明</p> <p>静岡県静岡市高松二二二六 慈貞院内<br/>〒422-8034 〇五四(二二七)一四四〇</p>  | <p>兵庫県神戸市兵庫区北逆瀬川町一 能福寺内<br/>〒652-0837 〇七八(六五二)一七一五</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> | <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p>   | <p>兵庫県仏教会</p> <p>会 長 雲井 世雄</p> <p>副 会 長 足立 有教</p> <p>同 濱田 諭稔</p> <p>同 森 日洸</p>  |
| <p>財団法人<br/>日本佛教鑽仰会</p> <p>理 事 長 中山 静磨</p> <p>東京都板橋区舟渡四一五一一<br/>〒174-0041 〇三(三九六七)三二八八</p>  | <p>茨城県行方市繁昌 一〇九八一 金仙寺内<br/>〒311-1712 〇二九(一三五)二八二七</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p>  | <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p> <p>同</p>   | <p>茨城県仏教会</p> <p>会 長 藪部 栄重</p> <p>副 会 長 奥田 俊亮</p> <p>同 寺内 泰俊</p> <p>同 寺門 俊文</p> |

# 年 新 賀 謹

|   |   |   |
|---|---|---|
| <p>北海道仏教会連盟</p> <p>会 長 山内教嶺</p> <p>札幌市中央区北三条西十九丁目二一<br/>浄土真宗本願寺派北海道教区教務所内<br/>〒060-0003 〇一一(六一)九六二三</p>   | <p>松山市土居町一〇五九 万福寺内<br/>〒791-1115 〇八九(九五七)七三四二</p> <p>同 二神瑞隆</p>         | <p>愛媛県仏教会</p> <p>会 長 挟間敬宗</p> <p>副会長 井田隆照</p>                           |
| <p>東京都港区芝四一三一四<br/>〒108-0014 〇三三(四五五)五八五一</p> <p>同 中野東禪</p>   | <p>同 福山諦法</p> <p>同 永野健</p> <p>同 中西智海</p> <p>常務理事 高島孝範</p> <p>監事 林行雄</p> | <p>財団法人 仏教伝道協会</p> <p>会 長 沼田智秀</p> <p>理事長 信楽峻磨</p> <p>理事 高崎直道</p>       |
| <p>東京都渋谷区千駄ヶ谷 四一五一十一F<br/>〒151-0051 〇三三(五七二)〇六七七<br/>FAX 〇三三(五七二)〇六七七<br/><a href="http://jbw.jp">http://jbw.jp</a></p> <p>事務局長 林 恵智子</p>   | <p>同 大賀美都子</p> <p>同 末廣久美</p> <p>理事長 島田喜久子</p>                           | <p>社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>名誉会長 鷹司誓玉</p> <p>会 長 大谷貴代子</p> <p>副会長 稲山靈芳</p> |
| <p>東京都目黒区中目黒五二一四一五三<br/>〒153-0061 〇三三(三七一一)七六〇八<br/>FAX 〇三三(三七一一)七六七三<br/><a href="http://villageinfo.ednet.jp/~ivgt">http://villageinfo.ednet.jp/~ivgt</a><br/>1070/home.htm<br/>E-mail: jhba@nifty.com</p> <p>役員 一同</p>   | <p>事務総長 正本乗光</p> <p>理事長 安田暎胤</p>  | <p>財団法人 国際仏教興隆協会</p> <p>名誉会長 高橋隆夫</p> <p>印度山日本寺 主 中村康隆</p>              |
| <p>天台寺門宗<br/>和宗<br/>妙見宗<br/>真言宗善通寺派<br/>真言宗山階派<br/>真言宗泉涌寺派<br/>東寺真言宗<br/>浄土宗西山禅林寺派<br/>浄土宗西山深草派<br/>真宗高田派<br/>真宗正派<br/>真宗木辺派<br/>臨済宗南禅寺派<br/>臨済宗建長寺派<br/>臨済宗相国寺派<br/>臨済宗東福寺派<br/>法華宗本門流<br/>法華宗陣門流<br/>法華宗真門流<br/>本門法華宗<br/>聖徳宗<br/>華嚴宗<br/>真言律宗<br/>律宗<br/>青森県仏教会<br/>岩手県仏教会<br/>群馬県仏教連合会<br/>栃木県仏教会<br/>千葉県仏教会<br/>石川県仏教会<br/>福井県仏教会<br/>山梨県仏教会<br/>長野県仏教会<br/>和歌山県仏教会<br/>島根県仏教会<br/>岡山県仏教会<br/>香川県仏教会<br/>(社)徳島県仏教会<br/>高知県仏教会<br/>福岡県仏教連合会<br/>長崎県仏教連合会<br/>宮崎県仏教会<br/>沖縄県仏教会<br/>(財)日本仏教保育教会<br/>(財)仏教振興財団<br/>東京ブテイストクラブ<br/>全日本仏教青年会<br/>仏教情報センター</p> |   |   |

## 第二十七期会長・副会長 推戴について

十二月一日、本会会議室において本会第二十七期（平成十八年四月～二十年三月）の会長・副会長推戴委員会を開催。推戴委員総数十五名中、出席者九名、委任者六名のもと委員会が行われた。

はじめに、仏教徒の歌斉唱、三帰依文唱和の後、里見達人理事長が挨拶に立った。引き続き正副委員長の選出が行われ、委員長に小林正道師、副委員長に大谷博通師が候補者として推薦され承認された。小林委員長進行のもと、会長・副会長推戴候補について慎重なる審議が行われた。会議の結果、会長候補者一名、副会長候補者三名について満場一致で推戴することとなった。十二月十三日開催の理事会では、「第二十七期会長・副会長推戴候補者について」里見理事長が議題として上程。

小林推戴委員会委員長が委員会の経過並びに推戴結果を報告した。理事会は、この報告を受けて次期の会長・副会長推戴候補とすることを承認した。尚、候補者名は、正式決定まで関係各所への影響を配慮し、伏せることとなった。本会事務局では、推戴された各候補者と所属団体に対し、就任に向けた調整を進め、三月末に開催予定の理事会・評議員会で第二十七期会長・副会長が正式決定される。

## 全日本仏教婦人連盟

### 第52回大会開催



挨拶に立つ大谷会長

十一月十九日、社団法人全日本仏教婦人連盟（大谷貴代子会長）主催の第五十二回大会が新高輪プリンスホテルで開催され、本会から里見達人理事長が出席した。各地から来賓、会員あわせて約百五十名が集い、新体制の下で青少年問題をはじめ様々な社会問題に取り組むなど、更なる飛躍を誓った。

第一部では、名誉会長の鷹司誓玉師（大本山善光寺大本願法主）を導師に全日本尼僧法団有志一同が式衆を務め記念法要を厳修。参加者一人ひとりによって献花が行われた。

続いて、大谷会長が「昨今、日本の社会は感謝の心と御恩を感じる心が希薄になってきています。感謝の思いは社会の根底を支える大切な精神であり仏教精神の根本です」と語った。祝辞に際して、里見理事長は「臓器移植や自然葬、死刑廃止、さらには少子化など生命にかかわる問題が重要になっている今日、伝統に加え創造的な仏教活動が求められており、時代をつくる女性の力に期待しています」と激励した。

大会宣言では、「夫婦助け合って子どもたちを育て、幸せな家庭を作り上げていく過程と母の在り方を、社会全体が認めるよう願います」と訴えた。

連盟活動の一つである写経運動は、昭和五十八年から続けられており、一巻につき千円が納められ、それによる浄財がインド山日本寺で行われている無料診療活動の運営資金となっており、今回は一千巻（百万円）が国際仏教興隆協会へ贈呈された。

また会場では、パキスタン大地震救援の募金が行われ、集まった浄財二十万五千円が里見理事長に手渡され、本会の救援基金へ寄託された。

## 東京都仏教連合会

### 「成道会の集い」

十二月五日、九段会館で東京都仏教連合会主催、全日本仏教婦人連盟共催の「成道会の集い」が開催された。

はじめに、成田有恒東京都仏教連合会会長（本会副会長）導師のもと、法要が執り行われた。

次に、佐藤憲雄師（曹洞宗）が『和笑のひとりごと』人生「ご苦楽」カ、キ、ク、ケ、コ」と題し講演。言葉遊びを交え、笑顔の大切さを述べた。場内は佐藤師の法話で大きな笑いに包まれた。清興では、小倉智昭氏（フリーアナウンサー）が『果報は練って待て』と題し講演。チャンスはただ待っているのではなく、努力して掴むもので、人には負けないという気持ちの大切さや、亡くなられた父が自分を見守ってくれていた想いを語った。

約六百名が参加し盛会であった。



導師を務めた成田会長(中央)

# 立正大学仏教学部・文学部主催 仏教文化シンポジウム開催

十一月十五日、午後四時から立正大学石橋湛山記念講堂で、立正大学仏教学部・文学部主催、本会協賛の下、仏教文化シンポジウム「釈尊（ゴータマ・ブツダ）の故郷を尋ねて ルンビニー、ティラウラコット」が開催された。坂詰秀一立正大学元学長はティラウラコットとルンビニーの考古学的所見を、また塚本啓祥東北大学名誉教授は文献学的見地からアシヨールカ石柱碑文の再解釈を解説した。また奈良康明駒澤大学総長は釈尊、アシヨールカ王、ルンビニー園のマヤ堂に関連し、古代インド仏教徒の法への思いを詳説した。一般からも多数参加し盛会であった。



ティラウラコットについて所見を述べる坂詰学長

# 事務総局録事

## 十一月（十一～三十日）

十一日▼本所仏教会創立五十周年祝賀会出席

▼国際仏教興隆協会主催シンポジウム「インドは、どこに行くのか」出席

十四日▼事務総局局内会議

十五日▼立正大学仏教文化シンポジウム出席

十六日▼第三十九回全日本仏教徒会議

滋賀大会開催（十七日）

十九日▼第五十二回全日本仏教婦人連盟大会出席

▼野口善雄本会元理事長本葬儀

参列

二十一日▼総本山長谷寺本堂国宝指定

記念奉告法要・祝賀会出席

二十二日▼自由民主党立党五十年記念大会出席

二十四日▼国際委員会

文化庁来局

二十五日▼中川祐俊本会元副会長宗葬

参列

▼薬師寺執事長来局

▼法律相談室

二十八日▼バングラデシュ・スマララ

ンカ氏来局

▼事務総局局内会議

二十九日▼タイ・プーケット日本人会

会長来局

三十日▼日本宗教連盟主催シンポジウム「生命と倫理」出席

▼同和委員会

## 十二月（一～十日）

一日▼会長・副会長推戴委員会

二日▼天台宗・福島社会課長来局

五日▼東京都仏教連合会主催「成道会

の集い」出席

▼タイ国王誕生日祝賀会出席

▼金融庁訪問、日蓮宗に同行

七日▼曹洞宗大本山総持寺訪問

▼総務省・内閣府訪問、天台宗に

同行

▼BNN企画委員会出席

八日▼法律相談

九日▼WCRP来局

▼事務総局局内会議

# 人事

就任

常務理事 濱中光礼（天台宗）

小林祖承（天台宗）

評議員 山本亮裕（天台宗）

税務委員会 源田俊昭（天台宗）

同和委員会 谷晃昭（天台宗）

信教の自由に関する委員会

ルンビニー委員会

小林祖承（天台宗）

財団創立五十周年記念事業実行委員会

金井孝顕（兵庫県仏教会）

杜多徳雄（事務総長推薦）

松永然道（事務総長推薦）

戸松義晴（事務総長推薦）

五條良知（事務総長推薦）

山田一眞（事務総長推薦）

鎌田良昭（事務総長推薦）

退任

常務理事 西郊良光（天台宗）

評議員 工藤秀和（天台宗）

税務委員会 久保智尚（天台宗）

同和委員会 秦順照（天台宗）

信教の自由に関する委員会

小堀光實（天台宗）

ルンビニー委員会

工藤秀和（天台宗）

# 哀悼

正野得修師（本会元評議員）

十二月四日遷化 八十一歳

融通念佛宗元宗務総長、常念寺住職

## ◆今月の表紙について◆

「アジャインタ第二十六窟（チャイティヤ窟）」インド・デカン高原西北のサフヤドリ連丘の谷間を流れるワゴラ川沿いに幅約六百メートルにわたり断崖をくりぬいて作られたインド最古の仏教石窟群。礼拝の対象として仏像が出現する大乘仏教の時代のもの。なかでも、第二十六窟は、完成した形で残っているもので最も新しい石窟。五世紀末に造られ、装飾全ての部分に精緻な彫刻がほどこされている。

## 救援基金へのご協力のお願い



(SVA 提供)

## さらなる慈愛の手を。パキスタンへ

本会では、日本国内や世界各地で発生した自然災害等に対して人道的支援のため救援基金を設置、加盟団体や一般の皆さまから義捐金を寄託いただいております。

十月八日現地時間午前八時五十分パキスタン北東部で発生した大地震から三ヶ月が経過し、この地震による犠牲者は七万三千三百二十人を数え（そのうち少なくとも二万人の子どもたちが犠牲）、約二百万人の子どもたちが負傷したり親族が亡くなったとされています。

被災地が山岳地帯のため、倒壊した建物の撤去作業に大きな力を発揮する重機が入らず、円滑な復興作業ができ

ない状況にあります。現在、各地にテナント村が作られ厳しい冬を乗り越える努力が続けられていますが、各援助機関では資金難が続いており、十分な救援活動が行えない現状です。

本会は、救援基金より十二月八日に仏教NGOネットワークを通じて現地活動支援のため三百万円を寄託。これまでにパキスタン大使館等併せて五百万円を支援させていただいております。加盟団体、各ご寺院ならびに檀信徒・門信徒の皆さまの温かい浄財を引き続き、左記口座までお寄せいただければ幸いです。

### 記

#### 【郵便振替口座】

口座名 全日本仏教会救援基金

口座番号 〇〇一〇一〇一九一七〇四八三四

#### 【お問い合わせ】

財団法人 全日本仏教会

#### 【寄付者】

(十一月十五日～十二月十二日)

本門佛立宗、社団法人全日本仏教婦人連盟、第三十九回全日本仏教徒会議賀大会募金、芝仏教会(東京)、長崎仏教連合会

(順不同・敬称略)

ご支援ご協力誠にありがとうございます。

## 世界遺産 総本山金峯山寺 節分会「鬼火の祭典」



「福は内、鬼も内」と唱える奈良県吉野山の金峯山寺の鬼の調伏式は、全国でも珍しい節分会の行事です。独特の伝統法会、節分会、鬼火の祭典は2月3日、金峯山寺本堂蔵王堂において盛大に営まれます。

- 2月1日(水)：吉野山・鍋対決味見  
吉野桜燈火・鬼火歩き
- 2日(木)：鬼火ライブ・千本づき  
仙人ぜんざい
- 3日(金)：節分会  
午前10時 日数心経  
午前11時 星供秘法・鬼の調伏  
採灯大護摩供厳修  
午後1時 福豆まき

#### 【節分会のお問い合わせ】

金峯山修験本宗総本山金峯山寺  
TEL(07463)2-8371

## 人権啓発講演会

### 「みんなの命輝くために」

講演 大谷昭宏氏(ジャーナリスト)

- 日時：2月10日(金)  
13:00 受付開始  
13:30 開会  
14:00 講演  
15:30 閉会

参加費：無料

会場：真言宗豊山派宗務所

〒112-0012

東京都文京区大塚5-40-8



【申込方法】参加希望者1名につき1枚ずつ、往復ハガキに郵便番号・住所・氏名(要フリガナ)・電話番号を明記の上、下記の申込先までお申し込みください。返信ハガキを入場券とさせていただきます。なお、参加希望者多数により定員を超えた場合には、その旨返信ハガキにてお知らせいたします。※必ず返信ハガキの宛先にご自分の郵便番号・住所・氏名をご記入ください。

【申込締切】1月31日(火)必着(先着300名)

【申込先】〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内

(財)全日本仏教会「人権啓発講演会係」まで

TEL.03-3437-9275 FAX.03-3437-3260